

県士会 ニュース

No.237

[2026.2]

Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —



TOPIC 新連載 第1回☆認定OTの世界をのぞいてみた☆ P. 2

巻頭言	P. 1	理事会議事録	P. 5
実践者向け 臨床実習指導研修会アドバンス 開催のご案内	P. 3	学術部主催スキルアップ研修会	P. 8
各部からの報告	P. 3	事務局からのお願い	P. 8
県士会ブログ紹介	P. 4	編集後記	P. 8
教育部 MTDLP推進育成課からのお知らせ	P. 4		

巻頭言

第7回 神奈川県臨床作業療法大会 開催のご案内

所 属：国立精神・神経医療研究センター病院 大会長 小砂 哲太郎

このたび、神奈川県作業療法士会では「第7回 神奈川県臨床作業療法大会」を開催いたします。

開催日時は 2026 年 12 月 6 日（日）

会場は神奈川県立保健福祉大学

テーマは「ニッチは、やがてプロフェッショナルへ」です。

本大会は、隔年で開催される神奈川県作業療法学会とは異なり、より臨床実践に近いテーマを扱い、特に若手作業療法士が発表や交流に挑戦しやすい「登竜門」としての役割を担ってきました。規模は決して大きくありませんが、その分、参加者同士の距離が近く、日々の実践を率直に語り合える温かい雰囲気を大切にしています。

今回掲げたキーワードは「ニッチ」です。ニッチとは、まだ多くの人に注目されていない、小さな関心領域や実践の芽を指します。臨床の現場では、「少し気になる」「面白そうだ」「もっと深めてみたい」と感じるテーマが、それぞれのの中に必ず存在します。それらは一見すると地味で、

すぐに評価されにくいかもしれませんが、しかし、関心を持ち続け、学びを積み重ねることで、やがてその領域は確かな専門性へと育っていきます。

若手の皆さんには、ぜひ自身の「ニッチ」を大切に、発表や議論を通して一歩踏み出す経験をしていただきたいと思います。また、経験豊かな先生方には、若手の挑戦を温かく支え、実践知を共有していただくことで、世代を越えた学びの循環が生まれることを期待しています。

本大会が、日々の臨床を見つめ直し、自身の関心や強みを再発見する機会となり、明日の実践につながる場となることを願っています。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



新連載

第1回☆認定OTの世界をのぞいてみた☆ ～教育部長インタビュー日記～

本連載では、日々の臨床を支えながらステップアップを続ける“認定作業療法士”のリアルな声をお届けします。制度の説明だけでは伝わらないのが、認定 OT の価値と魅力。

実際に取得した方の“きっかけ”“苦労”“得られた変化”を知ることで、「自分でも一歩踏み出せるかもしれない」と感じられるはずです。

今回は、大学院修了を機に認定 OT 取得を決意し、全国を飛び回りながら研鑽を積んだ会員にお話を伺いました。臨床・教育・研究が好循環し、日々の仕事がより楽しくなる——。そんな前向きな変化の物語から、あなたの“次のキャリアのヒント”を見つけてください。

Q1. 認定作業療法士を目指そうと思った“最初のきっかけ”は何でしたか？

臨床 6 年目で大学院の修士課程を修了したことを契機として、臨床・教育・研究の各方面からさらに実力をつけていきたいと思いました。

Q2. 認定 OT 取得までに特に苦労した点・工夫した点がありますか？

研修会の開催時期や開催地が限られていたため、抽選に落ちてしまうこともありました。北海道～福岡まで旅行プランを立てて、楽しみながら 1 年半程かけて単位を取得しました。事例報告は査読がしっかりしていて、何度か再査読となり、採択に至るまでに苦労したことをよく覚えています。

Q3. 認定作業療法士になって、どんな変化がありましたか？

査読依頼や研修会講師などの経験をさせていただく中で、臨床・教育・研究が好循環となり、楽しみが増えました。また、認定 OT を維持するために、継続して学び続けることの大切さを実感しています。

Q4. 認定取得を迷っている人に、「まずはこれだけやってみて」と勧めたい一歩は？

作業療法士の生涯教育制度は一番身近な研鑽の場だと思います。まずは県士会や作業療法士協会が開催している研修会に参加してみると臨床もより楽しくなってくると思います。

Q5. 認定 OT の学びの中で、“価値観が変わったエピソード”があれば教えてください。

臨床・教育・研究を一体として捉えることができるようになり、日々の仕事がより楽しくなりました。

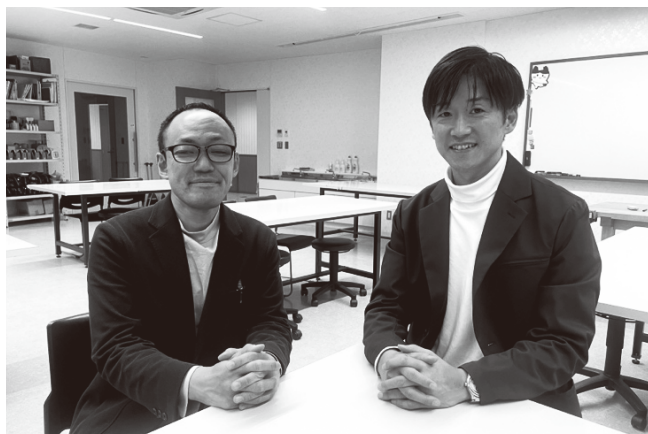
～インタビューを終えて～

認定作業療法士は、肩書きではなく「学び続ける姿勢そのもの」が価値を生む資格です。

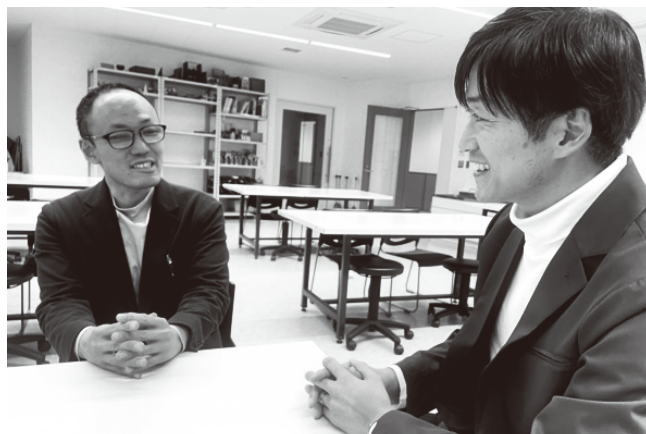
今回のインタビューにあったように、忙しさや不安はあっても、まずは県士会や協会の研修会に参加してみることがスタートラインになります。小さな一歩が、自分の臨床やキャリアの景色を大きく変えていきます。

「もっと成長したい」「指導や研究にも挑戦してみたい」——そんな思いが少しでも心にあるなら、あなたも認定 OT への道を歩み始めませんか？

次回も、現場で活躍する認定作業療法士の生の声をお届けします。どうぞお楽しみに。



写真左：増田 雄亮さん(湘南医療大学 准教授) 東京湾岸リハビリテーション病院を経て現職、7年目に認定作業療法士を取得。
写真右(インタビュー)：神保洋平(県士会理事 教育部長)



■ 実習指導の“重さ”が、“意味のある仕事”に変わる日。

——リアプレイザル(捉え直し)で、指導はもっと楽しくなる。

実践者向け 臨床実習指導研修会アドバンス 開催のご案内

神奈川県作業療法士会では、実習指導に携わる作業療法士を対象に、指導の質を高めるためのアドバンス研修会をオンラインで開催します。

実習指導はやりがい大きい一方、悩みや負担も生じやすい領域です。本研修では、指導場面を「苦労」ではなく「成長を支える専門実践」として捉え直すための視点を深め、日々の実習指導をより豊かなものへ転換することをねらいとしています。

講義では神保洋平氏が**「実習指導におけるリアプレイザルの力」**をテーマに、認知的再評価を用いた指導の組み立てを紹介。また、水野健氏・村仲隼一郎氏によるグループワーク、石川恵美子氏によるケースディスカッションを通じて、現場の“あるある”を共有しながら学び合う構成となっています。

指導に迷ったとき、「一人で抱え込まないこと」が質向上の第一歩です。

県内外の皆さまのご参加をお待ちしております。

文責：教育部長 神保洋平

開催概要

開催日時：2026年3月8日(日)

13:00～17:00(オンライン・Zoom)

内容

講義：「実習指導におけるリアプレイザルの力～認知的再評価と捉え直し～」

グループワーク：指導場面の検討と共有

ケースディスカッション(石川恵美子氏)

参加費

会員：無料

未入会・他士会：1,500円

基礎研修ポイント：2ポイント付与

厚労省の修了証の発行なし



各部からの報告

地域リハ人材育成研修会 開催報告

11月16日、地域社会振興部主催の地域人材育成研修会を開催しました。地域包括ケアシステムが進む中、作業療法士に求められる役割は年々広がっています。本研修会では、「地域はあなたを待っている」をテーマに、地域で活動する作業療法士として必要な基礎知識から実践的な視点まで幅広く学ぶ機会となりました。

午前の講義では、地域支援事業の目的や仕組み、自治体との連携、派遣事業の経過について当部副部長の石川氏よりご説明いただきました。さらに、作業療法士が地域支援事業にどのように関わることができるのか、事例を交えながらわかりやすく解説していただきました。その後、参加者同士によるグループワークを行い、地域支援への理解と実践のイメージを深め合う時間になりました。

午後は「地域はあなたを待っている」をテーマに、横須賀地域で活躍している梶ヶ谷氏にカツモデルから考える地域活動に必要とされる社会人基礎力や横須賀市での地域支援事業参画に関する経験談についてお話いただきました。また、参加者それぞれが自身の地域について調べ、地域に存在する課題や資源を共有しながら意見交換を実施し、地域と作業療法士の関わり方をより具体的に考える機会となりました。

参加者からは、「交流を通して知識が深まった」「地域へ出る具体的な方法が理解できた」「作業療法士としての働き方を見つめ直す機会になった」などの感想が寄せられ、学びと気づきの多い有意義な研修であったと振り返られました。

今後も、地域で活躍する作業療法士の育成を目的として、継続的に研修会や交流の場を提供してまいります。引き続き、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(文責：大河内)

ウェブサイト管理班（広報部） 県士会サイト 県士会ブログ紹介

県士会サイトでは様々なコンテンツが存在しています。本日はその中から「県士会ブログ」を紹介いたします。

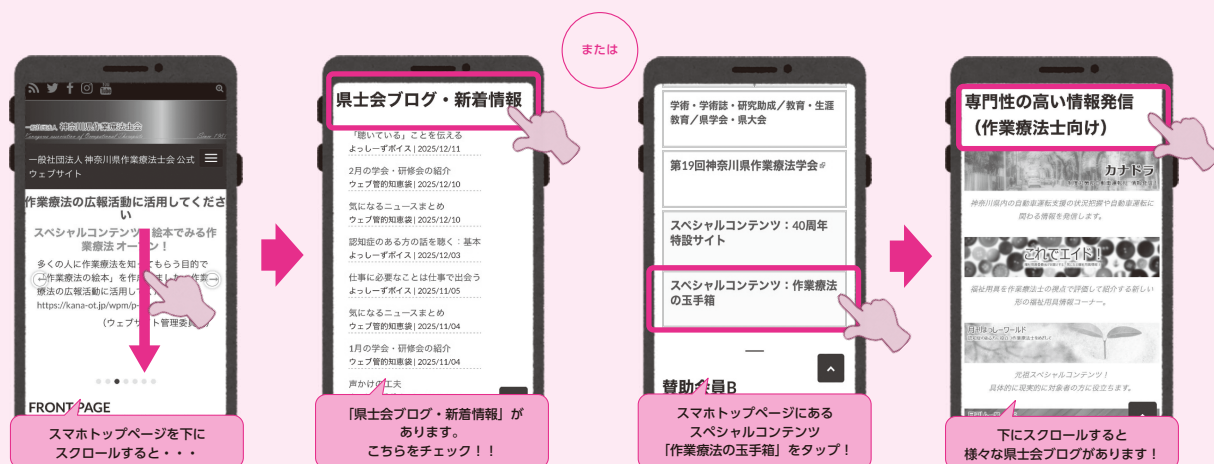
県士会ウェブサイトでは、ウェブサイト管理班が企画・管理・運営しているコンテンツの他に、制度対策部をはじめとした様々な部・委員・個人がプロ

グにて有益な情報を発信・掲載しております。

ブログの最新情報は一目で確認することもできますので、まだ見たことのない方は、ぜひ一度、覗いてみてください。あなたが求めている情報がきっと載っていますよ。

（文責 広報部 佐藤範明）

図)【マンガでわかる はじめての学会発表】閲覧方法（スマホVer.）



連載

教育部 MTDLP推進育成課からのお知らせ 2025年度のふり返りと 2026年に向けたMTDLP推進育成課の展望

2025年度も、MTDLP事例検討会3には約10名の参加があり、少人数ならではの濃密なディスカッションで会場は大いににぎわいました。あわせて実施した基礎研修には20数名の応募があり、基礎研修1と合わせると延べ50名強の方にご参加いただき、県内でのMTDLPへの関心の広がりを実感しています。

最近のトピックスとしては、昨年度、2回にわけ日本作業療法士協会によるMTDLP指導者認定の口頭試問が行われました。実際に受験のサポートに関わる中で、あらためて指導者認定のハードルの高さや責任の重さを痛感しました。その一方で、県内で実践を牽引する指導者を増やすことの重要性も再確認し、当MTDLP推進育成課では、口頭試問に臨む会員に対して課内指導者を総動員し、協会MTDLP室本部とも連携しながら支援体制を整えていく方針です。

士会としての今後の取り組みは、研修や事例検討会の継続

にとどまりません。地域社会振興部とも協働し、MTDLPをツールとして活用しながら、市町村行政や地域包括支援センター等との合同事業を企画していきたいと考えています。例えば、介護予防事業や地域ケア会議、就労・子ども支援など、生活行為の向上がテーマとなる多様な場面で、作業療法士が専門性を発揮できるような仕組みづくりを目指していきます。

こうした活動を通じて、MTDLPが単なる“書類の様式”にとどまらず、県民にとって必要とされる作業療法を届けるための共通言語として根付くことを願っています。今後も会員の皆さまとともに、臨床の質の向上と県民への発信を両輪として、神奈川県作業療法を一步ずつ前進させていきたいと思ひます。ご関心のある方は、ぜひ研修や事例検討会にご参加ください。

（文責 教育部・MTDLP推進育成課 担当理事 村仲隼一郎）

理事会議事録

★2025年度 11月度 理事会 議事録

日 時：2025年11月13日(木) 19:00～20:58

開催方式：オンライン開催

場 所：各自自宅または職場

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、奥原孝幸(副会長)、遠藤陵晃(副会長)、望月強併(事務局長)、玖島弘規、野本義則、澤口勇、青木啓一郎、神田崇史、神保洋平、佐藤隼、佐藤範明、村仲隼一郎、石川恵美子

欠席理事：佐々木秀一、山勢健太郎、佐伯まどか

出席監事：野々垣睦美

欠席監事：錠内広之

I. 会長より挨拶

新しい組織改編の中で次年度の予算案に繋げていければと思います。本日もよろしくお願ひ致します。

II. トピックス

1. 選挙管理委員会から報告について(廣瀬選挙管理委員長)

代議員選挙のスケジュールについて共有。11月29日代議員選挙告示、12月1日立候補届の受付開始、12月28日立候補届の受付終了予定。事務局や広報部など様々な部署に協力をお願いしたい。

2. よんばち報告について(神保会長)

渉外報告を用いて報告。
神奈川県も連盟を立ち上げて欲しいとの依頼があった。詳細は今後、連盟の方々と検討していく。

「協会員=士会員」は3士会の同意が得られず会費の一括徴収などのシステムは共有できない状況。各士会で会費徴収や会員管理が必要である。OT協会の5カ年戦略、重点課題項目、OT協会設立60周年企画について共有。士会・協会倫理連携担当者の設置について説明があった。

→連盟について神田理事からの報告

一般社団法人が連盟を設立することはガバナンスの問題が生じる可能性が高い。一般社団法人と連盟の活動は別組織として活動することが望ましいと考える。また組織を設立するにあたり住所登録が必要であり、活動資金の問題も生じる。

→連盟について情報収集を行なっていく。

3. 神奈川県立中井やまゆり園について(神保会長)

来年4月に独立行政法人化する予定。OTとして協力していけることがあれば積極的に協力していく。今回は福祉職として職員募集を行なっているが県士会のホームページでも広報を行なっている。県民ニーズに関して、MTDLPの理念、考え方を県の活動に活かせるように改めて県庁訪問を行なっていく。

4. 会員WG報告について(田中副会長)

会員種別を問わず、紙面での申し込みとなっている。申し込みをしやすくなるためGoogle formでの申し込みができるよう進めている。また会員になる際は理事会での承認が必要であるが、申し込みから承認まで時間を要するため「仮会員」として活動できるように整備していきたい。

①Google formでの入会申し込みについて(神田理事)

現在の定款、会員規程においてGoogle formでの申し込みは可能。本理事会において承認が得られれば運用を開始する。

→賛成多数で承認。

②仮会員について(神田理事)

入会申し込みから理事会での承認までの間を「仮会員」とし、本会員と同等の活動・特典が受けられるようにする。本理事会にて承認が得られれば運用を開始したい。

→賛成多数で承認。

III. 審議事項

1. Googleworkspaceの使用について(事務局)

→賛成多数で承認。

2. 会員管理システムの契約について(事務局)

システム内容や費用を考慮し、シクミネットで申し込みを行いたい。

→賛成多数で承認。

3. 後援依頼(事務局)

・小田原®フェス2026

→賛成多数で承認。

・第42回小田原地区糖尿病週間行事

→賛成多数で承認。

4. 年賀状送付について(事務局)

昨今、他団体において年賀状送付を取りやめる団体が増えてきている。当会としても継続するか取りやめるか検討したい。

→送付を継続、廃止において意見が分かれたため継続検討。対応については三役へ一任となった。

5. 査読委員承認(学術部)

→賛成多数で承認。

6. 部員承認(事務局)

→賛成多数で承認。

IV. 報告事項(各部署・理事・三役)

1. 経費への個人のクレジットカード使用について(財務部)

キャッシュレス化が進んでおり、クレジットカードでの支払いが求められる場面がある。

また利便性向上も目的に変更していきたい。今後、会計マニュアルを変更し理事会にて共有予定。

2. 第20回神奈川県作業療法学会 県士会ブース出展について(福利部)

当日は35名の来場があった。アンケートを実施し、倫理に関する研修会開催の提案や会員交流に関する活動提案、仕事と育児の両立が大変などの語り、職場に同年齢に近いOTが所属しておらず、自身も他県からの異動のため、他の施設や病院のOTとの交流の場を持ちたいなどの意見が聞かれた。来年度以降も継続し、学会内に常設していけるか検討したい。

3. 第20回神奈川県作業療法学会 終了報告について(学会支援課)

アンケート結果をスライドにて共有。

市民公開講座、学会ともに満足度が高い結果であった。新しい取り組みを行なった学会であり、今後の学会運営の参考にしていきたい。

4. 栃木県士会広報部との情報交換会について(広報部)

オンライン施設見学会についてZOOMで情報交換会を実施。神奈川からは金山課長、山勢理事、栃木県士会からは5名の参加があった。栃木県での啓発方法についても聴取したところ、「作業療法士を知ってもらうため協会冊子を図書館に置かせてもらっており、反応がよい」、「養成校と協力しながら啓発活動を行っている」ことなど、興味深い情報を得た。今後も継続して情報交換していくこととした。

5. かながわ介護フェアへのブース出展について(広報部)

2025年11月1日横浜新都市ホールで開催。介護現場の職員から質問を多く受けた。

6. 安否確認システムの運用訓練の実施報告について(制度対策部)

理事への点呼ツールはLINEを用いた。そのため煩雑さは認められないが、例年に比べ理事・役員からの返答に時間を要した。また返答が得られないといった事実も認められた。未回答者への対応については今後検討が必要。

また会員向けの安否確認については広報が課題である。次年度に向けて広報媒体も含め検討していく。

V. 次年度事業計画・予算について

1. 事業計画について(田中副会長)

第1回目の事業計画・予算案について各自確認し、質問や意見を提出して頂きたい。

自部署については次年度に向けたコメントと重要度評価、関連部門については事業の重要度についても互いに評価を行う。提出締め切りは11月28日(金)三役会までとする。

2. 予算案について(財務部)

第1回目の事業計画・予算案の提出を受けて、予算案を作成している。現段階では200万円を超える予算案となっている。今後、必要に応じて講師謝金の見直しや謝金規程の変更を検討していく。まず各部署において各事業の予算案の見直しを行い最終的な予算案を作成していく。

臨床実習指導者講習会やMTDLP研修会の講師謝金について明文化されていないため、今後謝金規程に明記できるよう進めていく。

【その他報告部署・理事】

1. 青木理事

次回12月度理事会において、中西氏(第20回県学会長)、小砂氏(第7回臨床大会長)、木下氏(第21回県学会長)に参加して頂き、挨拶及び学会・大会報告をして頂く予定。

2. 中間監査について(野々垣監事)

財務部理事が不在のため、紙面での報告は次回理事会にて実施する。会計処理については概ね適正に対応されているが、提出書類の不備や半期ごとの会計処理が完了していない事象が見受けられた。会計担当者の変更もあり、会計マニュアルが周知されていない可能性もあるが、今一度マニュアルを見直し、下半期で適切に対応して頂きたい。

VI. 監事より

野々垣監事:

第1回目の事業計画・予算案について各自確認し、質問や意見を提出して頂きたい。

自部署については次年度に向けたコメントと重要度評価、関連部門については事業の重要度についても互いに評価を行う。提出締め切りは11月28日(金)三役会までとする。

【その他報告部署・理事】

<青木理事>

組織改編により部署間の動きがわかりにくい部分もありますが、お互い連携して取り組んでいきましょう。新しい理事の方々も意見を発信して頂き、県士会活動を前進していけるように頑張りましょう。

以上
(文責：玖島弘規)

学術部主催スキルアップ研修会を オンラインで開催しました！

2025年12月21日、みなとのこどもデイ / 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 研究員 倉昂輝先生より「発達領域における子どもと家族を中心とした目標指向型アプローチー目標設定から戦略立案までの視点ー」をテーマにオンライン研修会を実施しました。県内・県外問わず約40名の参加がありました。子どもや家族との協働の重要性を踏まえ、目標設定から戦略立案に関する視点についてご講義いただき、子どもと家族の大切な作業の実現を支える目標達成支援アプリ(COSMO)についても紹介いただきました。本研修会を通じて、発達領域におけるリハビリテーション支援の在り方について理解を深め、さらなる実践の一助となる有意義な機会となりました。最後に、ご多忙の中ご講演をお引き受けいただきました倉昂輝先生に感謝いたします。
(文責：高見澤)



事務局からの お願い

- 届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います。(随時受付)
- 退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います(上記日必着)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式**ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集 後記

今号では認定OTのインタビューやオンラインセミナーの様子も掲載させていただきました。また次年度臨床作業療法大会についても速報でお知らせです。神奈川県士会では日々いろいろな活動を行っておりますので、ニュースでは会員の皆様にこのような活動およびぜひ知ってもらいたい情報を毎号掲載しております。理事会の議事録もお目通しいただけると神奈川県作業療法士会の現状や目指すところも知っていただけたと思います。紙面送付の号でもWEB上で読めますので、毎号是非チェックしてくださいね。
(びぐめい)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース〈237号〉2026年2月発行(年5回発行)

発行責任者 神保 武則
編集責任者 野本 義則
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原 保健医療学部 作業療学科)
山岡 光(湘南慶育病院)
佐藤 愛(悠の木株式会社)
丸岡ひろ(済生会横浜市東部病院)
松井 洋鷹(淵野辺総合病院)
碓屋 瑛理(佐藤病院)
印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011
横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル 301号
TEL/FAX: 045-663-5997
月火水木金 10:00~15:00
メールアドレス: jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
https://kana-ot.jp
➡ 作業療法 神奈川 検索

Facebook https://www.facebook.com/kaotwebkan
X https://x.com/kaotwebkan

